



2025 年 4 月 25 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 i s p a c e

代 表 者 名 代 表 取 締 役 C E O 袴 田 武 史

(コード番号：9348 東証グロース市場)

問 合 せ 先 取 締 役 C F O 野 崎 順 平

(TEL.03-6277-6451)

中核的連携機関として参画する研究開発課題の「宇宙戦略基金」採択のお知らせ

当社は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下、JAXA）によって宇宙戦略基金（第 1 期）として公募された「月面の水資源探査技術（センシング技術）の開発・実証」に、当社が連携機関として参画する研究開発課題「テラヘルツ波リモートセンシング衛星による月地下浅部の資源探索」が採択されたことを下記の通りお知らせいたします。当社は、本計画の中核的役割となる、衛星開発および打上輸送と運用を担う予定です。

記

1. 宇宙戦略基金の概要

宇宙戦略基金は、「輸送」「衛星等」「探査等」の 3 つの分野において「市場の拡大」、「社会課題解決」、「フロンティア開拓」の 3 つの出口に向け、スタートアップをはじめとする民間企業や大学等が複数年度（最大 10 年）にわたって大胆に技術開発に取り組めるよう、宇宙分野の資金配分機関として JAXA に新たに基金を設置し、支援するものです。内閣府及び総務省、文部科学省、経済産業省が策定した宇宙戦略基金の基本方針、実施方針等に基づいて、各省が技術開発テーマを設定しております。（※1）

本基金の第 1 期 3,000 億円分の技術開発テーマの内、「月面の水資源探査技術（センシング技術）の開発・実証」に対して、東京科学大学を代表機関とし、当社を含む連携機関からなるプロジェクトチームにより研究開発課題「テラヘルツ波リモートセンシング衛星による月地下浅部の資源探索」を応募していましたが、この度、本課題が採択されました。当社は本課題における中核的役割となる、衛星開発およびその打上輸送と運用を担う予定です。

（※1）出典：宇宙戦略基金のホームページ（<https://fund.jaxa.jp/about/>）を参照

2. 採択内容

募集機関	JAXA
代表機関	国立大学法人東京科学大学
技術開発テーマ	月面の水資源探査技術（センシング技術）の開発・実証
技術開発テーマの目標（※2）	① 月面の水資源探査の実施を見据え、月面の輝度温度分布を複数周波数において観測し、月面の水・氷含有量の推定分布に資するデータの取得が可能なテラヘルツ波センサシステム（10kg 程度以下）を搭載した衛星システム（100kg 程度以下）の開発を実施すること。 ② ①で開発した衛星システムを月周回軌道に投入して観測を行い、LUPEX（※3）等のその他探査機の観測データ等と組み合わせて分析する手法を開発し、月面における水氷の有望箇所を推定するとともに、水氷以外の資源の有望箇所の将来的な推定に繋げること。
支援件数	1 件程度
支援期間（※4）	4 年間程度（予定）
公表日	2025 年 4 月 25 日

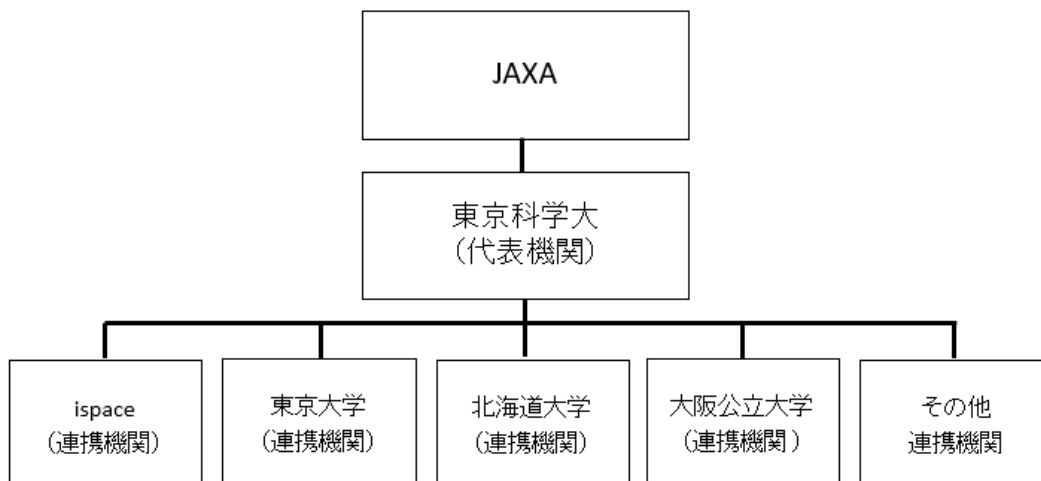
（※2）出典：令和 6 年度 宇宙戦略基金事業公募要領

（https://fund.jaxa.jp/content/uploads/koboyoryo_4-2.pdf）

（※3）LUPEX：月極域の水資源の存在量や質に関するデータを取得する月極域探査機（Lunar Polar Exploration）

（※4）支援期間：当初委託事業期間は、契約締結決定日から、最初のステージゲート評価が終了する日の属する年度の末日まで

3. 採択された研究開発課題の委託契約関係（予定）



4. 業績への影響について

本事業は、4 年程度の実施期間を予定しており、支援規模上限額の一部が 2026 年 3 月期以降、4 年程度をかけて当社連結業績へ寄与することを想定しております。当社は中核的役割となる連携機関として、今後数カ月を目途に、代表機関である東京科学大学との間で委託契約を締結予定であり、現時点において当社の受領金額は未確定ですが、少なくとも当社 2025 年 3 月期の連結売上高の 10%以上に相当する額の金額を実施期間にかけて総額で受領する見込みです。当委託契約を締結することを決定した際には、詳細を速やかに開示する予定です。

以上